令和8年度 瑞浪市夢づくり地域交付金 ステップアップ事業

ドラゴン21広場
売店整備事業

提案者：NPO法人釜戸町まちづくり推進協議会

売店整備事業が目指すところ

危機：買い物難民の増加
町内の商店の閉店により、日常的な買い物環境が失われつつあります。

逸機：通過する観光客
竜吟峡の来訪者は年間推定5万人。加えて、屏風岩、町内の３ゴルフ場、フェスティカサーキット瑞浪などの集客施設がありながら、地域内でお金を使う場所がなく、素通りされています。

町民の願い
地域計画2024では「気軽に集える交流拠点」の整備が目標に掲げられており、また、本年度アンケートでは「竜吟峡の魅力づくり」「買物環境の充実」を求める声が多く寄せられました。

本事業の狙い
本事業は、これまで逃していた観光消費を取り込むことで、単体では持続性に欠ける交流拠点づくりという町民の願いを、自走可能な形で実現することを目指します。



施設整備で生み出したい価値

東屋を「地域交流の拠点」へ

2008年建設の東屋（約20㎡）を改修し、調理・販売が可能な店舗へとリノベーションします。

提供メニュー

- **五平餅：**かつての釜戸の名物。自作タレで焼きたてを提供
- **みたらし団子：**子どもも喜ぶ定番の味
- **地元野菜：**町民の買い物機会を確保

※出品者から販売手数料は頂かず、町内の買い物支援及び地元農家の販売支援として行います

その他

- **生活支援：**売店周辺に**移動スーパーの定期出店**を誘致。拠点化し、安定した買い物支援を実現します。
- **交流促進：****マルシェイベントを不定期開催**。町民も出店できる、交流が生まれる場を創出します。
- **観光消費：**町内店舗のパンフレット配架などにより周遊案内を実施。地域全体への経済波及を狙います。



運営体制：地域女性の力



70代の「現役」が支える店舗運営

- **地元女性13名の新組織：**
  元五平餅屋の経験者も参加。熟練の技術とおもてなしの心で運営します。
- **効率的な営業スタイル：**
  営業時間は土日祝日（9:30〜15:30）及び予約販売に限定し、無理なく継続できる体制を構築します。
- **生きがいの創出：**
  高齢者の活躍の場と、多世代交流の拠点を両立します。



整備予算と資金計画

これまでの投資を収益に変えるために

施設整備に必要な400万円を交付金と釜戸財産区からの補助金とで賄う計画です。
これまでに森のゆうえんちや竜吟岩の整備で高めてきた竜吟峡の魅力を「収益」に転換させていきます。

項目	金額（円）
【収入】 市ステップアップ交付金	3,000,000
【収入】 釜戸財産区補助金	1,000,000
収入合計	**4,000,000**
【支出】 改修工事費	3,290,700
【支出】 設備購入費・その他	709,300
支出合計	**4,000,000**

収支予測と実現可能性

国道19号線の昼間12時間交通量は1日1.5万台超※1。来訪者のわずか数％が立ち寄るだけで達成可能な計画です。



年間売上合計：約 335 万円

材料費・委託費・光熱費を差し引いても収支均衡を維持可能な見通しです

※1　国土交通省,令和3年度全国道路・街路交通情勢調査,令和5年公表

将来像とリスク管理

黒字の場合：自走化

売上が見込みよりも多く黒字が出る場合は、販売従事者への還元を行い、モチベーションを向上させます。
加えて、収益をNPO法人の自主財源として事業費に充て、**補助金に依存しない自立した運営**に繋げていきます。

赤字の場合：転換

オープン2ヶ月後に、経営状況を分析し改善策を練る販売戦略会議を開催し、販売品目の見直しやコスト削減、PR強化などの経営改善策を講じていきます。
それでもなお、年間収支が赤字化した場合は、 外部業者に店舗部分を運営してもらう**「場所貸し事業」への転換**を検討し、交流拠点としての持続性を確保していきます。

むすびに

令和8年7月、
ドラゴン21広場は
釜戸の「新たな玄関口」になります。

「買い物支援」と「観光消費」の両立。

私たちは、この事業を通じて、地域の内外を問わず多世代が笑顔で集う持続可能な地域拠点を作り上げます。

ご清聴ありがとうございました。

